

鹿児島県本土におけるウバメガシの分布

川 越 良 昭*

Distribution of *Quercus Phillyraeoides* A. Gray
in Kagoshima Prefecture proper

Yoshiaki Kawagoe

ウバメガシ *Quercus Phillyraeoides* A. Gray はブナ科のカシワ属に属する常緑の小高木で、密に分岐し、葉の質が厚く、クチクラ層の発達がよく、辺縁は硬く、やや裏面に巻きこみ、典型的な硬葉型で、一種の硬葉樹種といえる。

本種は国内では三浦半島、伊豆半島、四国、九州南部、甑島列島、屋久島、種子島、黒島、宝島、沖縄に局地的に分布している (Fig 1)。

本県では本種とその品種であるケウバメガシ *Quercus phillyraeoides* f. *wrightii* Mak. が海岸の断崖や海岸周辺の岩場に限られて自生している。

広域的にみると、ウバメガシは内陸性の常緑樹であって、現に中国では内陸に分布している。本邦において本種が海岸性である原因について、初島²⁾ (1948) は「日本がかつてアジア大陸の一部をなしていた当時、ウバメガシは中国西南部から日本の西南部方面にかけて内陸的に分布していたが、日本の大陸からの分離により気候も変化し寒冷になったとき一時海岸方面の暖地に移動し、その後移動が困難で現在における分布になった。」としているように特殊環境によって残された遺存植物群落の一種と考えられ、その分布は植物学上興味のあるところである。

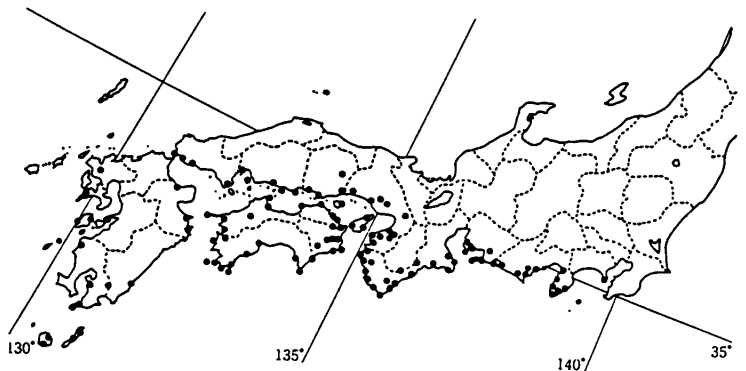


Fig 1 ウバメガシの分布 (トカラ以南は略)

(倉田悟, 浜田稔夫1971)¹⁾

* 鹿児島県立博物館

本県におけるウバメガシの分布についてはすでに確認されている（文献1, 3, 14, 15, 16）が、筆者は1985～1986年にかけて現時点の分布、生育状況及びケウバメガシの随伴分布状況について調査を行ったので報告する。

離島については、奄美大島の調査は1978～1980年に行ったが、他の島嶼については調査が不十分なので、今回の報告書では現在まで分布が確認されているところを分布図（Fig 2）に記載するにとどめた。

この報告書作成にあたり、鹿児島大学農学部講師、迫静男先生、鹿児島大学名誉教授 初島住彦博士に種々の御指導を賜った。ここに記して深甚の謝意を表したい。

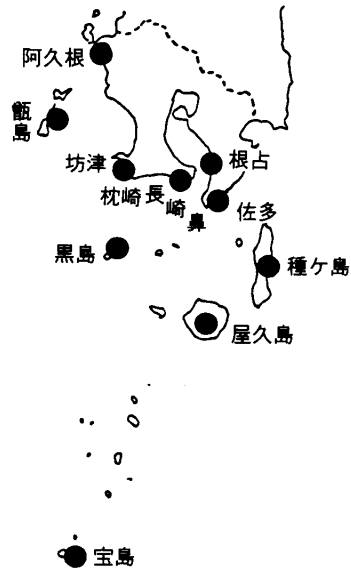


Fig 2 ウバメガシまたはケウバメガシについて、これまでに採集地が判明している箇所



1. 調査方法および調査期日

現地に赴き、標本を採集し確認した。調査地域の概要は次のとおりである。

1985年 5月 3～5日	奄美大島	1985年 11月 7日	坊津
5月 13日	喜入～指宿	11月 25日	大浦
6月 25日	川内	11月 28日	串木野
7月 23日	始良	1986年 1月 26日	山川～坊津
8月 6日	志布志	1月 29日	阿久根～串木野
8月 22日	田代	1月 31日	佐多
9月 16日	福山～垂水	2月 9日	枕崎
10月 7日	市来	2月 11日	長崎鼻
10月 14日	加世田～日置	2月 13日	枕崎
10月 21日	桜島	2月 15日	内之浦

II. 調査結果

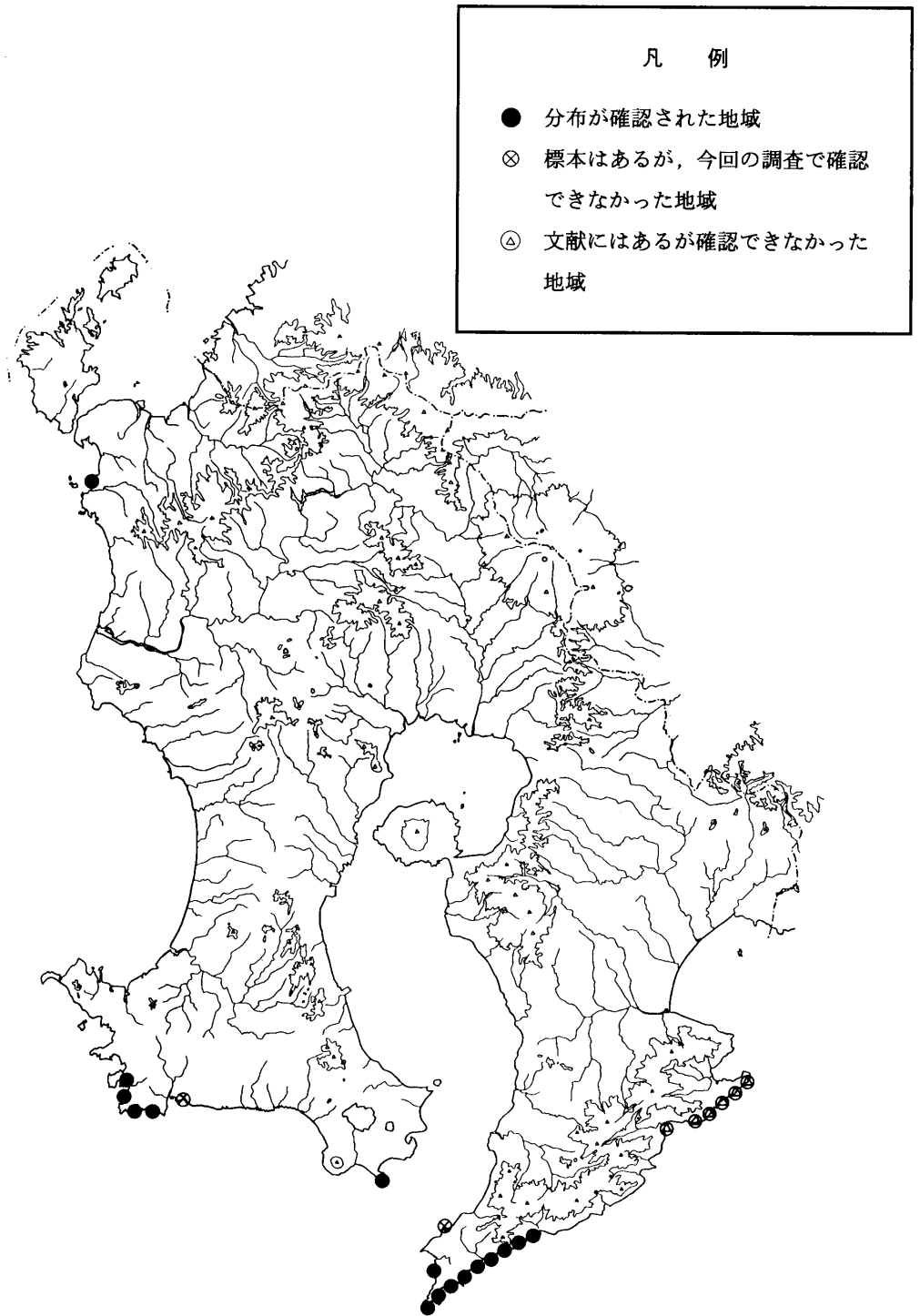


Fig 3 鹿児島県本土におけるウバメガシの分布

A. 阿久根

阿久根港より南西部の東シナ海に面した遠見ヶ岡 (822m), 倉津, 大丸町にかけての古生層および中生層地帯にウバメガン及びケウバメガンが混生し, マテバシイ, イタジイ, とともに樹高2-3mの樹林を形成している。ウバメガンとケウバメガンの生育割合はケウバメガンが多いが, 他の地域と比べるとウバメガンの個体数は比較的多い。組成種としてクロマツ, マサキ, ネズミモチ, クチナシ, ハマヒサカキ, ヤブニッケイ, ナワシログミ, テリハノイバラ, ヨモギ, ノジギク, カニクサ, ヒトツバなどが確認された。

この地域には国民宿舎があり, 風致林としての役割も大きい海岸林である。調査時は道路拡張のため山の斜面の切りくずし工事を行っていた。今後, 樹林への影響など変化を観察する必要がある。この地の分布記載としては初島²⁾ (1948) の報文がある。

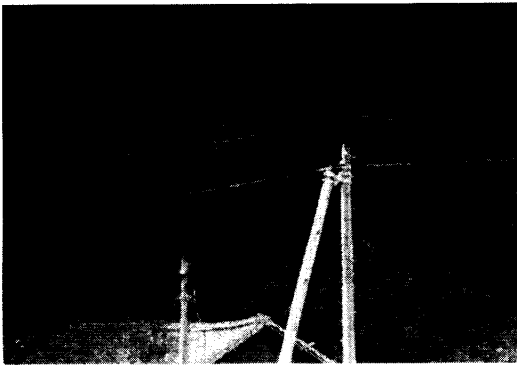


Fig 4 太丸町より遠見ヶ岡を望む

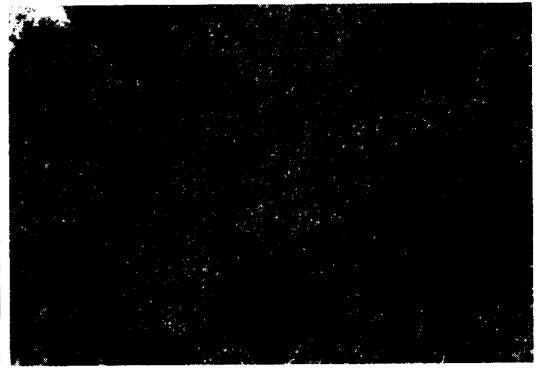


Fig 5 倉津の樹林

B. 根 占

根占町を流れる雄川により南西部, 錦江湾に面した丘陵地の南部に位置する丸峰は地質的には新生代古第3紀層日南層群から成り立っている海岸沿いの断崖に樹高2~3mのケウバメガン林が生育している。純林に近いがマテバシイと混生した樹林を形成しており, 随伴種としてタイミンタバナ, ハクサンボク, オオイタビ, サルトリイバラ, マルバグミ, トベラ, ナワシログミ, ハマウドなどが確認された。丸峰で樹林を形成しているところを2ヶ所確認した。

調査時点では道路建設中で, 崖の切りくずしが行われており, 又, 近日中に薪炭用として伐採す



Fig 6 丸峰のケウバメガン林

る予定とのことである、伐採後の変化を観察する必要がある。

丸峰ではウバメガシを“ミサキシバ”と呼んでいる。この地の分布記載としては内藤³⁾(1934)の報文がある。

C. 坊 津

坊津～泊～坊, 坊津～久志に点在している。坊津は薩摩半島の南西に位置し, リアス式海岸線が延べ52kmにおよび南から坊, 久志, 秋目と続き温暖な無霜地帯である, 地質的には中生代四万十層よりなり, 今回の調査で, ウバメガシとケウバメガシが生育していることがわかったが, ウバメガシは非常に少ない。

坊津ではクロマツと混生しており個体数も少なく, ヤブツバキ, ヤブニッケイ, イタジイ, ネズミモチ, モクタチバナ, タイミンタチバナ, アラカシ, サツマサンキライなどと混生しており, 樹林の形成はみられず点在している。丸野²⁾(1978)のケウバメガシの報文がある。

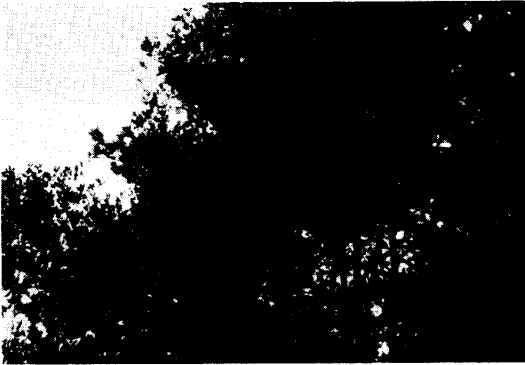


Fig 7 坊津歴史民俗資料館前

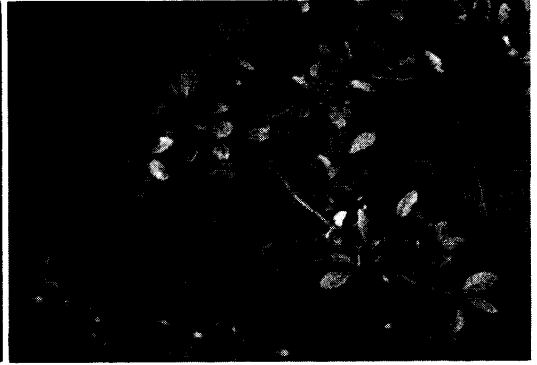


Fig 8 坊津～久志

D. 佐 多

今回の調査で島泊～大泊, 大泊～外之浦～間泊～竹之浦, 郡～辺塚, 大泊～田尻～佐多岬で確認した。

佐多町は大隅半島の最南端に位置し, 年間平均気温19度で無霜地帯であり, 佐多岬を北限とする南方系の植物が多い。地質的には新生代古第3紀層日南層群から成り立っている。ケウバメガシはこの一体には非常に多く, ケウバメガシの純林も見られる。特に大泊～竹之浦, 辺塚ではみごとな純林を形成している, 今回の調査で島泊入口付近で, ウバメガシを採集した。この地域はウバメガシとケウバメガシが混生しているものと思われるが, 島泊以南の海岸地域ではケウバメガシのみ見られた。

ケウバメガシ林の組成種としてクロマツ, マルバニッケイ, ネズミモチ, ヤブニッケイ, シャリンバイ, トベラ, モクタチバナ, ハマヒサカキ, テリハノイバラ, ツワブキなどを確認した。

外之浦の純林は近日中に薪炭用として伐採する予定になっている、伐採後の変化を観察したい。大泊ではウバメガンを“ハマガン”と呼んでいた。

本館収蔵標本に伊座敷で採集した標本があるが、今回は確認できなかった。内藤³⁾(1934)のケウバメガンの報文がある。



Fig 9 島泊入口



Fig 10 大泊～外之浦



Fig 11 外之浦～竹之浦

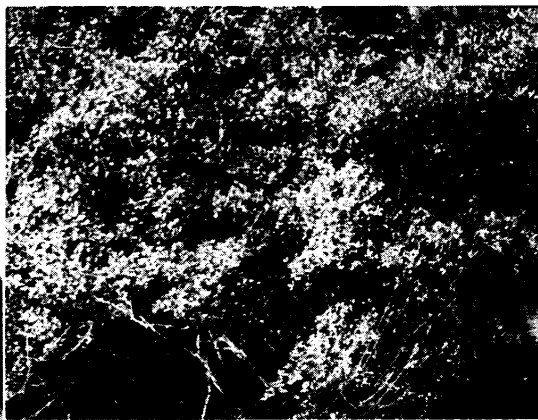


Fig 12 竹之浦～辺塚

E. 長崎鼻

山川町から西方約3kmのところにある景勝地である。龍宮神社の裏山のクロマツ林中ケウバメガンが点在している、地質的には新生代4紀火山岩類である。組成種としてマルバニッケイ、トベラシャリンバイ、ハマヒサカキ、マサキ、アコウ、ダンチク、タイミンタチバナ、ナワシログミ、アキグミ、スイカズラ、ツルウメモドキ、ハスノハカズラ、ススキ、ハマユウなどが確認された。

ケウバメガンは高さ1～2m位で、個体数は少なく点在している。

Ⅲ. まとめ

県本土におけるウバメガシの自生地は、これまで阿久根だけが知られていたが、今回の調査で、坊津、島泊を追加することができた。一方ケウバメガシの自生地としては、薩摩半島では阿久根、坊津、長崎鼻、大隅半島では根占（丸峰）、佐多が確認された。

このように県本土ではケウバメガシが大半を占めておりウバメガシの個体数は、非常に少ない。

植生としては、佐多、根占、阿久根にみられるケウバメガシの純林ないしは純林に近い状態のところと佐多の海岸の断崖及び周辺の崖以外のところ、坊津、長崎鼻のように組成種を含み、他の樹種と混生し、ケウバメガシとしては点在しているところの2通りがある。

ケウバメガシの分布地として、枕崎、伊座敷が知られているが、今回の調査では確認できなかった。なお環境庁現存植生図⁹⁾（1982）では内之浦町岸良、火崎にウバメガシが分布しているようになっているが、今回の調査では確認できなかった。

今回の調査の結果、根占、阿久根は道路工事による崖の切りくずし、根占、外之浦においては薪炭用に伐採される予定になっており、今後これらの生育地が人為的な環境破壊を免れるとは思えないので、今後も観察を続けたい。

参 考 文 献

- | | | | |
|-----------------|--------------------------------------|----------------|------------------------|
| 1. 初島住彦 | 鹿兒島県植物目録 | 1978 (37) | 鹿兒島植物同好会 |
| 2. 初島住彦 | 生態学会研究 | 1948 (101~106) | 日本生態学会 |
| 3. 内藤, 梶原 | 鹿兒島県自生植物目録 | 1934 (365) | 鹿兒島高等農林学校
25周年記念論文集 |
| 4. 初島住彦 | 琉球植物目録 | 1977 | でいご社 |
| 5. 鹿兒島地学研究会 | 鹿兒島地質図 | 1965 | |
| 6. 地域開発コンサルタンツ | 志布志湾地域の生態的
基礎調査 | 1973 (34) | 東京 |
| 7. " " | 大隅半島の植物社会的生態
学的な環境診断の調査 | 1973 (8, 43) | " |
| 8. " " | 大隅半島の植物社会学的生態
学的な環境診断の調査 | 1974 (17) | " |
| 9. 新敏夫ほか | 鹿兒島県西部及び北部地域
自然環境保全基本調書
同上 植生図 | 1974 (14~15) | 鹿兒島県 |
| 10. 堀越増興, 青木淳一編 | 日本の自然(6) 日本の生物 | 1985 (106~107) | 岩波書店 |
| 11. 北沢右三ほか | 大隅半島の自然環境に
関する総合的研究 | 1958 (19~36) | 資源科学研究所 |

- | | | | |
|--------------|------------------------|----------------|----------|
| 12. 今井勉 | 日本生態学会誌 | 1965 (160~170) | 日本生態学会 |
| 13. 初島住彦 | 鹿児島植物3号 | 1974 (1~42) | 鹿児島植物同好会 |
| 丸野勝敏 | ” ” | (58~63) | ” ” |
| 14. 丸野勝敏 | 鹿児島植物4号 | 1978 (33~40) | ” ” |
| 15. 迫静男・丸野勝敏 | 鹿児島大学農学部
演習林報告 | 1983 (33~58) | 鹿児島大学農学部 |
| 16. 環境庁 | 第2回自然環境保全
基礎調査現存植生図 | 1982 | 東京 |